

砂と暮らし
砂に学ぶ
ITP
だより

シリア北西部、トルコ国境に近い丘陵地の一角は、クルド人の人々が住んでいます。クルド人は独自の国家を持たない世界最大規模の民族で、クルド語を話し、宗教的にはその大半がイスラム教に属します。

マガラ村(シリア)の生活(1)

私は研究のため、しばしば調査地の村の一家庭で泊まり込みの調査をしています。村では英語が通じず、言葉の全く分からないところでの生活には不安もありました。しかしそれ以上に、日本と環境



研究を行っているシリア北西部のマガラ村で、現地のクルド人とともに暮らす(前列右から2人目が著者)

や文化の異なる場所での生活できる期待でいっぱいでした。村人たちは皆親切です。私が歩いて調査地へ向かっていると、親切にバイクに乗せてくれたり、作業中には気軽に声を掛けてお茶に誘ってくれたりします。彼らが積極的に話し掛けてくれるのに、答えられないことがもどかしく、クルド語の勉強に取り組みました。今では日常会話がある程度話せるまでになりました。

現在は多くの村人と知り合いになり、村に滞在しながら調査・研究を行うことは、私の一番の楽しみです。
(鳥取大学大学院農学研究科学生・酒井裕和)
(水曜日に掲載)